

第72回 島根県神社関係者大会

9月14日 於 益田市 島根県芸術文化センター「グラントワ」



神宮大宮司挨拶 (杉浦信良参事代読)

島根県神社庁報

第359号

島根県神社庁
〒699-0701
出雲市大社町杵築東286
TEL 0853-53-2149
FAX 0853-53-2582

宣言

天皇陛下におかされては、天機愈々麗しく日々ご精励遊ばされ、誠に慶賀に堪えない。国民斉しく大御代の長久と皇室の弥栄を御祈念申し上げるところである。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては、昨年の参拝者数は六〇〇万人余りとなり、伊勢の地が賑わいを取り戻しつつあることは、ご同慶の至りである。

さて、新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置付けが五類に引き下げられた。平常な暮らしへの回復が見込まれている今こそ、祭祀の継続、再興を目指して取り組みまねばならない。

本日ここに集う我々神社関係者はお互いに力を結集し、一丸となって次の目標に向け努力していきたい。

一、皇室敬慕の念の喚起につとめる。

一、神宮奉賛のまことを捧げ、神宮大麻の頒布推進につとめる。

一、祭祀の厳修と神社の尊厳護持に万全を期する。

一、国旗・国歌を尊び、愛国心の昂揚につとめる。

右、宣言する

令和五年九月十四日

第七十二回島根県神社関係者大会

目

次

第七十二回 島根県 神社関係者大会	1	大社國學館入学案内	9
第七十二回 島根県 神社関係者大会報告	2	身分昇級	10
国民精神昂揚研修会報告	3	神職任免	10
権正階・直階階位 検定講習会を終えて	6	庁務日誌	11
神宮大麻頒布始祭	8	社☆ガール通信	12
氏青県大会報告	9	支部だより	13

第七十二回島根県 神社関係者大会報告

総務委員長 小野 高慶

第七十二回島根県神社関係者大会が、九月十四日益田市の島根県芸術文化センター「グラントワ」を会場に県内各地から神職、氏子総代等神社関係者、七百名余りが参加し盛大に開催された。コロナ禍により四年ぶりの大会であり、また益田市での開催は実に七年ぶりの開催となった。

午前十時からの式典では、神宮遙拝並びに奉務神社遙拝に始まり、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、物故神職並びに物故神社関係者への黙禱に続いて角河和幸島根県神社庁長、木佐明宏島根県神社総代会長がそれぞれ挨拶をした。

顕彰、表彰の部では、神宮大麻頒布優秀支部として鹿足支部が表彰され、頒布優良奉仕者として大原支部の鎌倉神社勝部正樹宮司、邑智支部の王子神社勝部祐

樹祐宜が表彰された。続いて神社庁長表彰では、十一名の神職功績者表彰、四名の神職功労者表彰と二十一名の責任役員総代の方々が氏子功労者表彰を受けた。神社本庁統理感謝状は二神社の氏子一同、二企業代表と個人に贈呈された。また、島根県神社庁長感謝状が個人、団体を含め百三十四名に贈られた。

来賓を代表して神社本庁統理代理藤江正謹常務理事、神宮大宮司代理杉浦信良参事、益田市長山本浩章様よりご祝辞をいただいた。続いて来賓の方々の紹介並びに祝電の披露があった。そして被表彰者を代表して益田支部八幡宮旧責任役員宮崎泰己氏が謝辞を述べた。最後に大会宣言案を巨勢佳史島根県神道青年協議会会長が声高らかに宣言し、満場一致の拍手で採択され式典を終えた。

休憩の後、国の重要無形民俗文化財である大元神楽が上演された。最初に忌部正孝副庁長より、上演される大元神楽と神楽社中「市山神友会」について紹介があり、数ある演目の中から儀式舞の「鈴合せ(四剣)」が披露された。白衣に襷



鈴合せ (四剣)

と袴という素朴な出で立ちと、取物も刀と鈴の簡素な姿で舞うこの舞は、修験者風の趣を最もよく残している演目で、四人の舞手がそれぞれ剣を持ち東西南北の災禍を剣の徳をもって祓い清めるもので、コロナ禍の収束を願う現況に相応しいものとなった。四十分に及ぶ演目であった



聖寿万歳

が、舞手と囃子の息の合った熱演に会場一同熱心に見入っていた。
大元神楽は当庁過疎地域活性化推進施策の指定団体でもあり、活動の成果を関係者の皆様に直接ご覧いただく大変良い機会ともなった。

閉会にあたり角河和幸庁長の発声により聖寿の万歳を三唱し、大会は無事に納められた。

教化委員会総集會
『国民精神昂揚研修會報告』
(併三部合同教化會議)

教化委員 中田宏記

令和元年に開催した後、翌年からコロナ禍により中止されてきた国民精神昂揚研修會が七月二十五日、出雲市民會館にて約九十名の参加を得て開催された。

明治期より始まった神宮大麻全國頒布活動は昨年百五十年を迎えた。これを契機として、この研修會としては初めて神職と総代の合同研修會とし、今一度、大麻奉斎の意義を学び、皇室敬慕及び神宮崇敬の念の涵養、本宗奉賛活動の促進に繋げることを目的に実施された。

研修會に先立ち、角河和幸庁長より、本研修會の意義は戦後教育における歴史觀の変動を正し、本来の心に立ち返ること



木本先生の講演

とであると説明された。この度は総代と合同の研修會であるからこそ、共に神宮大麻頒布促進のための学びを得て、神社の護持運営に努めたいと挨拶された。続いて、出雲・石見・隱岐の各部會から教化活動報告が行なわれた。

研修會第一講は神宮祢宜・神宮司庁頒

布部長の本木雅文先生を迎え、「神宮大麻 全国頒布の意義」と題して講義が行なわれた。先生は講義に先立ち、御師が活動された時代の「御祓大麻」から現在神宮の社頭で授与されている「授与大麻」、祈祷にて授与される「神楽大麻」等をロビーに展示され、それぞれの説明をされた。そして、神宮大麻を納めていた木箱が「おほらい箱」の起源である説明を加えていただき、参加者は興味津々の様子で聞き入っていた。

また、神宮の変遷についても述べられた。神代から現代に至る歴史の中で、第十代崇神天皇の御代に八咫鏡を宮中で祀ることは畏れ多いとされ、次の垂仁天皇の御代に倭姫命に命じ、各地を巡幸された後に現在の伊勢の地に鎮座されたことを説明された。次に「神嘗祭」は、その年初めて収穫された稲穂をまず大御神に捧げ、神恩に感謝する祭儀で、年間の祭祀で最も重要であると説かれた。続いて「式年遷宮の意義」「神宮を貫く使命」について話された。式年遷宮は千三百年の歴史があり、二十年ごとに社殿や御装束・

神宝を作り替え、大御神に新しい社殿にお遷りいただく祭儀である。これは創建当時と同じ形式と空間を後世に伝えるための重要な祭儀であると説明された。神宮大麻については、現在神宮職員(神宮頒布部)が奉製し全国に頒布しているが、その始まりは大麻頒布を独自に行なっていた御師が明治期に廃止され、それにより、神宮は自ら大麻を奉製する大麻歴製造局を設置したことである。また、神宮大麻の種類として各神社を通して配られる頒布大麻と神宮神楽殿などで授与される授与大麻についての違いを説明された。そして神宮大麻全国頒布の意義としては「感謝の心でこの国を満たすこと」と説かれた。家庭の神棚に氏神様、崇敬神社の御札に併せ、神宮大麻をお祀りし、家族揃って手を合わせることで、家庭は「感謝に満ち」それが、かけがえのない安らぎと心の豊かさをもたらしてくれると述べられ、講義を結ばれた。

第二講は神社本庁参事・神社本庁本宗奉賛部長の湯澤豊先生に「全国の神社がなぜ神宮大麻を頒布するのか」と題して

講義をしていただいた。

戦後GHQにより、昭和二十年十二月十五日神道指令が発出され、神道は国家から分離され、神宮においても一宗教法人となった。神社本庁は昭和二十一年二月三日、皇典講究所、大日本神祇会、神宮奉斎会の三団体を母体として、全国神



湯澤先生の講演

社の総意に基づき、神宮を本宗と仰ぎ、一致協力して神職の使命を達成するため設立された。しかし戦後の時局により昭和二十四年の神宮式年遷宮は中止される(四年後に斎行)。こうした難局にあつて、神社界が一致協力して神宮をお輔けていこうと決意されたのが、本宗奉賛活動である。昭和二十一年十月一日に第一回神宮大麻暦頒布式が斎行され、大麻頒布は神宮から委託を受ける形で始められた。後に本庁の中に神宮奉斎課が設けられて神宮との緊密化が図られ、神宮大麻の普及に尽力することとなった。

現在の「神宮大麻及び神宮暦頒布取扱要綱」では「大麻の頒布は、本宗たる神宮の御神徳を宣揚し、神社神道の興隆に寄与する目的で、神社本庁が包括するすべての神社およびその関係者が一致して実効を挙げなければならぬ事項とする。」という厳しい表現が用いられている。しかしながら、平成二十二年以降、神宮大麻の頒布数は減体傾向に歯止めがかからず、過疎化や人口減少の問題もあつて、頒布活動を取り巻く環境は厳し

さを増すばかりである。

県内の状況としては、中山間地域では過疎化が進み、都市部に至つては、世帯構成が核家族や単身世帯が増えている。そのため、神宮大麻を受けていない世帯



錦田中国地区教化講師のまとめ 並 質疑応答

が増えているのが現状である。それらに向けての頒布促進のアプローチをするこゝとが、頒布向上に重要であるとされ、「皇室と神宮、神社、そして国民が一体となつて国家の平安と繁栄を祈ることが我が国のあるべき姿。この美しい国体を後世に継承するためにも、家庭祭祀の重要性を氏子崇敬者に説き、神宮大麻の頒布活動にご協力をいただければ幸いです。」と締めくくられた。

終了後に両先生が登壇され、錦田剛志中国地区教化講師がコーディネーターとしてまとめと質疑応答を行なった。続いて、牛尾充教化委員長の謝辞をもつて閉会となった。

今回の研修会は、神宮大麻奉斎の意義を総代と共有する良い機会となり、大変充実したものとなった。



権正階・直階

階位検定講習会を終えて

去る八月七日より約一ヶ月に及ぶ階位検定講習会（前期 権正階乙課程、直階甲課程 後期 権正階甲課程、直階乙課程）が開催された。

九月三日に閉講式を行い、修了生から謝辞が述べられた。

謝辞（前期）

僭越ながら、講習生を代表して、お礼のご挨拶を申し上げます。まず、講習会の開催にあたり、ご英断、ご準備、運営全般に関わっていただきました鳥根県神社庁角河庁長様を始め、各関係の皆様のおかげで、私たち権正階乙課程十一名、直階甲課程十五名が、講習会を修了することができましたこと、厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。今夏も猛暑となる中、先の八月七日、篠田副庁長様から「氏子に寄り添う必要性、神職に就く者は人とのつながりを重んじることの大切さ」についてのお話を拝聴し、講習は始まりました。



前期 権正階(乙)・直階(甲)

初日から、各講師の先生が創意工夫をされた講義を展開され、自らの経験から求められる心構えや教養についての、深い造詣に支えられた、熱意ある貴重なお考えを学ばせていただきました。神道を歴史的に俯瞰し、日本古典から神様の成り立ちに思いを馳せることができました。祭式の講義では牛尾先生を始め金築先生、森先生、野上先生から祭りが成立す

る上で必要となる細やかな作法について指導を徹底していただき、身の引きしまる修練の継続の必要性を学べました。また、講習生の生活、健康面など全般について支えていただいた金築参事を始めとした神社庁職員の皆様、誠にありがとうございました。講習生の中には本当に若い息吹が感じられ、私自身、負けられないと感じていました。各講習生が、講習を終え、奉務神社に戻った際には、新しい風を吹かせ、神社を盛り立てていくと信じています。そして、鳥根県、日本全体を幸せにできる神職に成長していくことでしよう。私自身が始まりの時と考え、皆さんに負けないように、人として成長し続けていくとともに神職としての経験も積んでいく決意です。私たち講習生全員の未来においても、鳥根県神社庁関係者の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。お礼のご挨拶とさせていただきます。

令和五年八月十九日

修了生代表 壺倉 和良

修了生名簿

権正階(乙)
 森脇 求
 壺倉 和良
 山本ソレンセン貴子
 宮能 幹典
 平林 卓也
 石田 実也
 佐藤 功
 中林 司
 松浦 充
 森山 雄介
 生藤 佑太郎

直階(甲)
 坂田 久好
 福田 亮晶
 福島 直太
 金築 伸直
 春日 隆史
 松尾 史
 松原 花瑠
 中島 文也
 児玉 晋也
 古木 秀典
 内田 剛志
 佐伯 哲志
 佐藤 悠作
 大澤 悠翔
 勝部 弥生美

謝辞(後期)

僭越ながら、修了生を代表して御礼の言葉を申し上げます。

本日、私たちが無事に閉講式を迎えることが出来たのは、ひとえに島根県神社庁 角河庁長様をはじめ、講師の皆様、職員の皆様のお陰です。誠にありがとうございました。

八月二十二日から始まった階位検定講習会 権正階甲課程、直階乙課程は、登山でいう五合目からの出発でした。講習

生活は様々な講義や夏の暑さもあり、時に心が挫けそうにもなりました。しかし、痛みを耐え汗を流して行事作法に励む友や、講義内容を忘れまいと休憩もせず机に向かう年上の友、自らも疲れているのに場を和ませてくれる友など、素晴らしい友たちと、共に一歩ずつ登ってまいりました。私は、時折休憩時間に直階の友たちと談笑しながら、何とか頑張つて欲しいと思いと同時に、自分が直階の頃を思い出していました。あの頃は自分のことだけで手いっぱい、周りの事に気が回しませんでした。そして、今になって分かったこと、それは講師の先生方、職員の皆様、神社へのご奉務や日常業務の間を縫って、私たち受講生の為に、神職として必要な様々な知識や作法・心の在り様などを教え導いてくださった事に、心より感謝申し上げます。我々修了生は、先生方からご教示いただいた事を奉務神社で実践し、ひたすらご奉仕していく所存です。

本日、私たちは講習会という山を何とか登りきることが出来ました。しかし直ぐ目の前にはまた新たな山が聳えること



後期 権正階(甲)・直階(乙)

と思います。庁長様を始め先輩方は遠く先を登っておられ、私たちからそのお姿は見えませんが、私たちも、弱い足取りになろうとも「惟神の道」を一歩ずつ進み、山を越えてゆきます。そしていつの日か、先生方のお姿が霞んで見えてきた時「何とか頑張っています」と少しでも胸を張って言えるよう、また先生方からお褒めの言葉を掛けていただけるよう精進してまいります。

粗野で稚拙な謝辞になりましたことお許しください。

結びに、庁長様を始め講師の先生方、職員の皆様にはくれぐれもご自愛ください、今後益々ご清祥にあられますようご祈念申し上げます、お礼の言葉といたします。誠にありがとうございました。

令和五年九月三日

修了生代表 佐藤 功

修了生名簿

権正階(甲)

森脇 石田 佐藤 松浦 森山 平林 生藤
求実 功充 雄介 卓也 佑太郎

直階(乙)

坂田 朝倉 福島 内藤 進藤 松原 青戸 福間 永海 佐伯 春日 大澤
好樹 久秀 亮太 悠志 愛花 長子 宏晃 哲緒 悠伸 翔

神宮大麻曆
頒布始奉告祭

九月二十六日神社庁神殿において神宮大麻曆頒布始奉告祭が角河庁長他役員支部長参列のもと齋行された。

祭典奉仕者

- 齋主 安部圭司 (能義)
- 祭員 宮廻郁丸 (能義)
- 奏楽 長妻久康 (能義)
- 奏楽 須山修司 (能義)
- 典儀 牛尾 充 (浜田)



中田教化委員





齋木理事の挨拶

神社庁において、おおよしろ青年会主管により「第五十七回島根県氏子青年協議会定期大会」が開催された。
神社庁金築参事を講師に研修会を開催し、式典では神社庁齋木正保理事を始め三名の来賓を迎え盛大に行われた。

氏青定期大会

令和五年九月三十日



会旗の伝達

大社國學館入学案内

詳細は直接大社國學館までお問い合わせ下さい。

《所在地・照会先電話番号》

大社國學館

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283

電話 0853-53-2020

《入学試験・内容》

- 第1次 令和6年2月20日(火)
 - 第2次 令和6年3月21日(木)
 - 第3次 令和6年4月10日(水)
- 筆記試験(国語・国史・作文)及び面接

《募集人員》

普通課程Ⅱ類(本科生) 15名
同(選科生) 若干名
予科(別科生) 若干名

《出願手続締切》

- 第1次 令和6年2月15日(木)
- 第2次 令和6年3月16日(土)
- 第3次 令和6年4月5日(金)

神社フォトギャラリー

神社の社殿、神事・神賑行事、神社を含む四季折々の風景など、様々なお写真を募集します。



松江支部 児守稻荷神社
例祭 亀尾神能「八重垣」
(宮司 鳥屋尾 浩様より提供)

写真
送先

〒六九九・〇七〇一 出雲市大社町杵築東二八六
島根県神社庁 録事 高見幸子 あて
Eメール takami@shimane-jincho.or.jp

※神社名、神事・行事名や所在地、提供者のお名前を記載の上、お送り下さい。

次号までの締め切り 十一月末日

神職身分昇級

二級上 令和五年九月十日付

松江護國神社 宮司 工藤 徹
国主神社 宮司 齋木 正保
八幡宮 宮司 青木 英明

二級 令和五年九月十日付

新宮神社 宮司 金津 一男
忌部神社 祢宜 和田 晋爾

神職任免

(令和5年4月1日～10月1日)

任	免	免	任	任	任	任	任	任	免	任	任免
5・10・1	5・9・30	5・9・25	5・9・1	5・8・15	5・8・15	5・8・15	5・8・15	5・8・15	5・8・8	5・4・1	発令月日
三津山神社	三津山神社	出雲大社	八幡宮	春日神社	御嶽神社	諏訪神社	八幡宮	出雲大社	出雲大社	隠岐神社	奉職神社名
雲南市大東町	雲南市大東町	出雲市大社町	安来市伯太町	江津市桜江町	江津市桜江町	江津市桜江町	江津市桜江町	出雲市大社町	出雲市大社町	隠岐郡海士町	鎮座地
兼宮司	兼宮司	本権祢宜	兼権祢宜	兼宮司	兼宮司	兼宮司	本宮司	本権祢宜	本権祢宜	本権祢宜	兼本務職名
土屋典之	土屋典彦	篠田孝紀	井上弘良	〃	〃	〃	三浦重嗣	立花晃一	村尾美海	〃	氏名

庁務日誌

(令和5年7月～9月)

- 7月3日 神社関係者大会打合せ 於 益田(金築参事、和田主事出席)
- 7月13日 総務委員会・神社関係者大会打合せ
- 7月17日 令和5年度飯石支部関係者大会 於 掛合交流センター(篠田副庁長出席)
- 7月24日 運営検討委員会
- 7月25日 教化委員総会国民精神昂揚研修会 於 出雲市民会館(角河庁長、忌部・篠田両副庁長 他役員出席)
- 7月27日 教化委員会石見部会総代会敬神婦人会合同役員会 於 濱田護國神社(角河庁長出席)
- 7月28日 第48回船通山記念碑祭・第56回宣揚祭 於 鳥取つるぎ会館(齋木理事参列)
- 7月29～30日 神社庁祭式講師研修会 於 國學院大學(森・野上祭式助教参加)
- 8月3日 第49回鹿足郡敬神婦人会総会 於 太鼓谷稲成神社(角河庁長出席)
- 8月6日 令和5年度鳥根県女子神職会総会 於 ホテルリッチガーデン(金築参事出席)
- 8月7～19日 階位検定講習会開講式権正階(乙11名)直階(甲15名)受講
- 8月15日 松江護國神社終戦記念祭 於 松江護國神社
- 濱田護國神社戦没者追悼慰霊祭並平和祈願祭 於 濱田護國神社(篠田副庁長参列)
- 8月19日 全教神協中国地区研修会 於 松江ホテル白鳥(角河庁長出席)
- 8月20日 石見部神職研修会 於 濱田護國神社(角河庁長出席)
- 8月22～9月3日 階位検定講習会開講式権正階(甲7名)直階(乙12名)受講
- 8月22日 宮司辞令交付式
- 8月23日 監査会・役員会
- 8月23～24日 第67回広島県神社関係者大会 於 広島県立文化芸術ホール(忌部副庁長出席)
- 8月26日 教化委員会出雲部会令和5年度国民精神昂揚夏季錬成講習会 於 神社庁
- 8月29～30日 中国地区教化会議 於 ANAクラウンプラザホテル広島(錦田中国地区教化講師、中田教化委員、和田主事出席)

8月30日 神社関係者大会打合せ 於 益田(和田主事出席)

9月3日 第65回旧八束郡出身戦没者慰霊祭並八束支部神社関係者大会 於 鹿島文化ホール

9月11日 神社総代会出雲部会評議員会

9月14日 第72回鳥根県神社関係者大会 於 益田市 鳥根県芸術文化センター「グラントワ」

9月16日 奨学金委員会 於 益田市 鳥根県芸術文化センター「グラントワ」

9月17日 神宮大宮司招宴 於 神宮会館(角河庁長、和田主事出席)

9月17日 神宮大麻暦頒布始祭 於 内宮神楽殿(角河庁長、和田主事参列)

表彰式 於 神宮会館(角河庁長、和田主事出席)

神宮大麻秋季推進会議 於 神宮会館(角河庁長、和田主事出席)

伊勢神宮崇敬会地方本部事務局長会 於 神宮会館(和田主事出席)

皇學館神社関係者懇談会 於 鳥羽国際ホテル(角河庁長、和田主事出席)

神社庁長懇話会 於 神宮会館(角河庁長出席)

9月18日 神社庁長会 於 神宮会館(角河庁長、和田主事出席)

皇室普及委員会 於 神宮会館(角河庁長、和田主事出席)

9月20～21日 第72回神社本庁教誨師研究会 於 佐賀県(門・吉岡教誨師出席)

9月25日 神社庁教化委員会出雲部会前期総集会

総務委員会・階位検定委員会

正・副庁長会

9月26日 身分昇級伝達式・宮司辞令交付式

神宮大麻暦頒布始奉告祭・支部長会

9月30日 鳥根県氏子青年協議会定期大会(総会) 於 神社庁(齋木理事・金築参事出席)

神職帰幽

浜田市佐野町 八幡宮 祢 宜門 屋 承

令和五年十月十七日 享年四十

謹んで哀悼の意を表します。

鳥根県神社庁長 角河和幸

开社☆ガール通信

船通山の麓

奥出雲町の神社を巡る

今回は船通山の麓、奥出雲町の神社を巡りました。

「伊賀多氣神社」(いがたけじんじゃ)(仁多郡奥出雲町横田一二七八番地)の主祭神は、素戔嗚尊(スサノオノミコト)の御子神 五十猛命(イソタケルノミコト)。神社の略記に、五十猛命は鳥髪山(船通山)から乾(い



伊賀多氣神社

ぬい)の方角にあたる地にとどまり、住民と共に樹木の苗を育て、荒山に植樹し治山治水を行ったとあり、林業の神様として崇められています。

階段を上ると、拝殿一面の窓ガラスが明るく輝くように見え、周りの木々が写り込んで自然と一体化しているようでした。まさに林業の神様にぴったりの雰囲気。とても美しかったです。

「鬼神神社」(仁多郡奥出雲町大呂二〇五八―二)の主祭神は、素戔嗚尊、五十猛命。

鳥居の横に、素戔嗚尊が五十猛命とともに、新羅の国から渡ってこの地に降り立った時に乗ってきたとされる埴船(はにふね)が岩化したものと伝えられている巨石「岩船大明神」が祀られていました。地上に出ているのは二メートル程で、地下には数メートルもの大きさで埋まっており、動かすことができないといわれているようです。

また、鬼神神社の裏山に五十猛命の御陵墓とされる墳墓(ふんぼ)があるようで、ここに五十猛命が眠っているらしいんだなあと思うとロマンを感じました。



鬼神神社 岩船大明神

社名の「鬼」については、御由緒によると、『御祭神の五十猛命は、靈力絶大で、邪氣、怨霊祈伏の神として鬼神伊賀武大明神と称えた』とあり、その強さを「鬼」という言葉で表したのかもしれないですね！

「稲田神社」(仁多郡奥出雲町稲原二二二八―一)の主祭神は、稲田姫命。素戔嗚尊と結婚される前の女神様がお祀りされているので、やはり社殿の造りに柔らかない雰囲気がありました。稲田姫命御生誕の地とされる場所に建っている神社で、拝殿・本殿ともに、金縁の「姫」の紋があるのが印象的でした。



稲田神社

境内には、「姫のそばゆかり庵」という奥出雲産の石臼挽き手打ち十割蕎麦が食べられるとても美味しいお蕎麦屋さんがあること有名。この日も行列で、在来の横田小そばや天日干しの仁多米の味を求めて賑やかでした。

奥出雲町の神社は、やはり八岐大蛇神話と深い関わりを感じる事ができ、とても興味深かったです。

大原支部だより

大原支部総代会研修会

副支部長総代会担当 玉 木 恭 二

大原支部総代会研修会は、毎年一回神社庁を会場に神殿正式参拝、敬神生活の綱領・大原支部作成神社宣言の唱和、手水・玉串拝礼作法等実技研修、講師講話や神社役員・総代の心得についての文書学習を通して責任役員や総代としての心構えを養ってきました。

しかしながら、支部総代会役員の方々から氏子数の減少に神社運営の危機感を覚えておられ、五年後、十年後……という未来に向けて何らかの対策が必要ではないかという貴重な意見提案をされました。

そこで、総代側の受け身の研修から、氏子数減少の危機感を共有し、各神社総代会役員自らが考え行動できるような研修にな



らないかどうか、新たな方法を今年度は模索してみました。

その達成に向け六月十日に総代会研修会を開催し、KJ法を取り入れ、支部内各神社の現状把握と課題の再確認、今後の取組についてグループ討議を実施しました。

確認された課題

若い世代の氏神様意識、氏子の信仰心の希薄化と施設維持・管理、環境整備・財政・人的体制維持の困難さ 等

今後の取組

- ・ 氏神様について考え直す機会を持つ(氏神様とは、氏子とは)
- ・ 神社のあり方、存在意義
- ・ 神社の謂われ・歴史を伝える
- ・ 次の世代のため記録を残す
- ・ 祭の意義を伝える(季節の祭り)
- ・ 神社の魅力は何かを伝える
- ・ 氏子の旅行、神社巡りの開催
- ・ 社☆ガールの方にお願ひして、若い世代への切りこみ役になってもらう
- ・ クラウドファンディングで資金調達もするとよい
- ・ 一風変わった神社を若い人にみてもらう



- ・ 神社にお願いしたいこと
- 「氏子とは、氏神さんとは」が説明できる資料がほしい
- ・ 地域新規加入者情報を一早く取り、総代会役員が加入交渉をする 等

研修参加者の感想

- ・ 神社規模に関わらず、抱えている諸問題について話したり聞いたたりすることができ、大変有意義な研修会でした。今後の氏子減少問題、将来の神社運営の参考になりました。
- ・ 規模に関わらず、同様の問題が多く、全体的に氏子減少ほどの神社も大きい課題であるので、短期・長期で検討が必要である。

・ 初めての参加でした。これを機に出雲大社へも伊勢神宮へも新たな気持ちでお参りしたいと考えました。社☆ガールの存在を知り、出会ってみたいと思いました。

・ 神社には大小あるが、共通の悩みがあることを知り、それぞれの取組を聞き、励みになった。一番には、神社の存在意義を今一度考える場を持つことを大事にしたいと思った。 等

今後、支部では宮司を中心に氏神様と氏子、祭祀の意味等、機会を見つけては啓発すること、また総代会では若い世代・女性の方々に氏神様や神社に対しての思いを聞いてみる機会を設けること等が確認されました。



編集後記

本年新年号より新しい企画として「神社フォトギャラリー」を始めましたが、いかがでしょうか。この一年間、貴重な写真をお寄せいただきました神職、氏子崇敬者の皆様、ありがとうございます。

この企画は、現代の神社の姿を記録し後世に残す意味もありますが、それぞれの皆様が神々や神話を感じる場所を多くの方々に紹介していただきたいとの意図をもっています。これは、安易に景勝地やパワースポットのことを言っている訳ではありません。神社や神域、あるいは神話の舞台とされる場所は、古代から人々がそこに何をみてきたか、何を思ってきたかを考えさせる地です。

写真は、「撮る」ことによって自分が感じたことを伝えるものだと思います。どうぞ、現代に生きる皆様の感じられた撮って置き一枚をお寄せください。(便宜上、締め切り日をつけていますが、常時受け付けております。よろしくお願いたします。)

(陶)

鳥根県神社庁報(第三五九号)
 発行日 令和五年十一月二十日
 発行者 鳥根県神社庁
 編集 広報委員会
 委員長 陶山 浩正 委員 鳥屋尾 浩
 副委員長 宮能 壮充 委員 江角 恵
 委員 石崎 彰矩